

万延元年遣米使節団子孫の会

第8回 Zoom 懇親会

2022年2月5日（土）午後7時30分

万延元年遣米使節団子孫の会

第8回 Zoom 懇親会

2022年2月5日（土）午後7時30分

トミーと呼ばれた少年通訳の生涯

曾孫の長野和郎による調査研究

ペリー提督の2度目の日本来航時横浜では、既にトミーは叔父立石得十郎の通詞見習



第3通訳名村、横浜にて



1843年10月9日（天保14年9月16日） 江戸小石川小日向馬場東横町役宅で、幕府直参旗本**小花和度正**（**ハナナリ・ナリサ**）、妻**ル**の次男としてトーは生まれた。

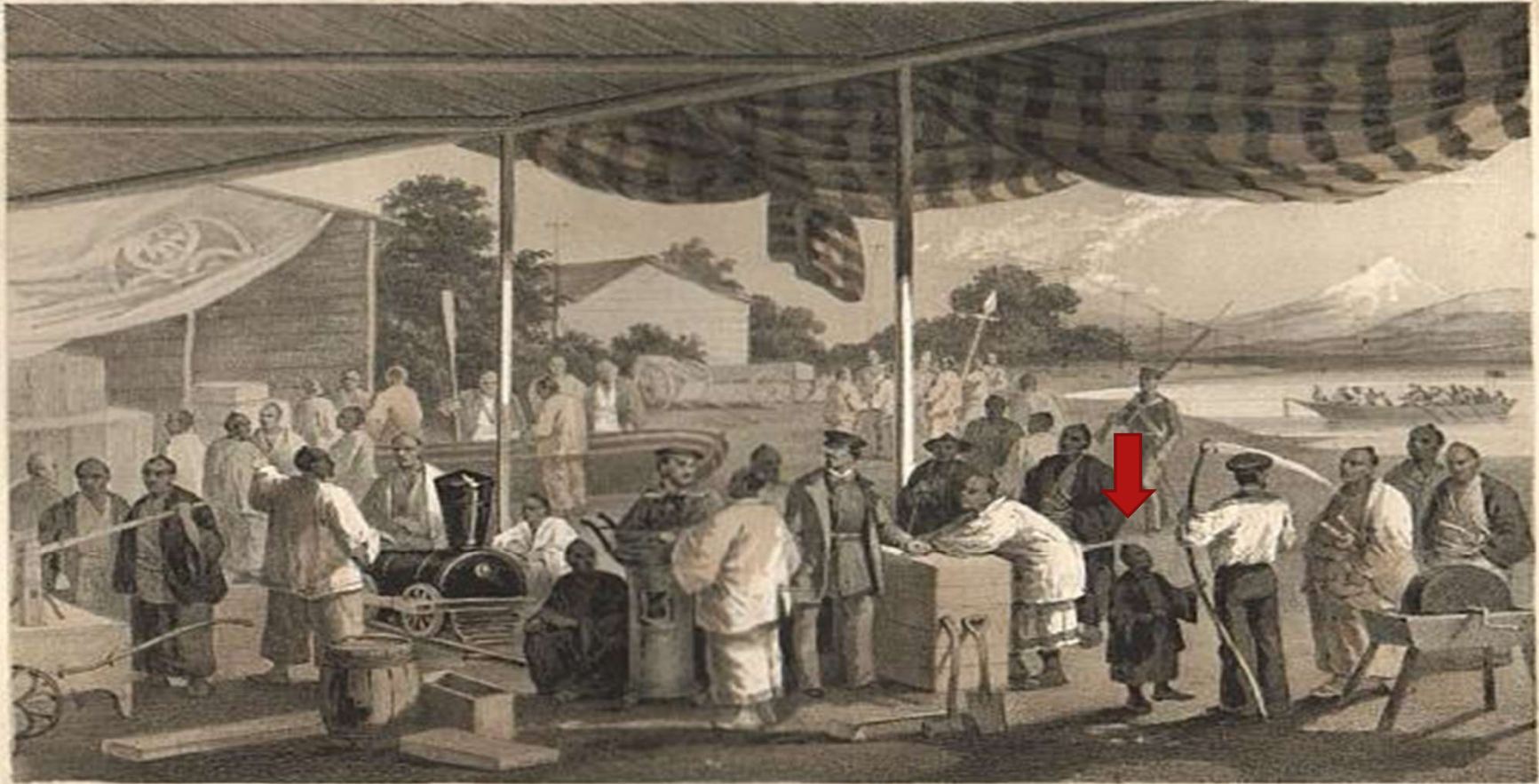
その後病身虚弱であったため、3歳の頃下総松戸の豪農横井金蔵方へ里子に出される。そこでの幼名は**為八**と呼ばれていた。

1853年10歳の頃、丈夫に育ったトミーは、横田金蔵方から引き取られ。母の実家で旗本直参米田猪一郎の養子となる。米田家の叔父で幕府の蘭語通詞立石得十郎のもとで語学を学ぶことになる。

1853年といえばペリーの黒船が浦賀に来航した年である。「ペリー提督日本遠征記」によれば、浦賀沖での折衝と久里浜上陸時の和蘭通詞は、主席通詞森山栄之助、2等通詞立石得十郎及び3等通詞名村五八郎で、再来日1854年の時も立石得十郎が横浜と下田で通詞をしている。

ペリー艦隊に随行したプロシア人ウィリアム・ハイネが横浜上陸時の光景を数多くの石版画に残しており、「ペリー提督日本遠征記」の中に「第三通訳名村・横浜にて」という石版画が掲載されており、名村と一緒に立っている少年が描かれている。この少年こそトミーであることは、推測ではあるもほぼ間違いは無い。

東善寺の村上泰賢住職のからの発信効果絶大で、最近の書籍には同画像に「名村五八郎と立石斧次郎」と明記されてている。



Printed and Published by W. & A. G. & Co.

Edm. at 300 N. 10th St. New York

DELIVERING OF THE AMERICAN PRESENTS AT YOKUHAMA.



安政元年(1854)ペリー提督黒船陸戦隊訓練の図 黒船従軍画家 ハイネ筆 原画はアメリカ海軍兵学校所蔵
 訓練終了後 ペリーと林大学頭全権との間で日米下田条約が締結された。
 図中の本堂は現在、座裡鐘楼は安政の大津波によって消失した。
 石版画は了仙寺所蔵 写真はその寺所蔵の石版画複製

トミーは当時下田にもいた。

下田了仙寺



ペリーは下田の了仙寺で日米和親条約の細部を幕府側と協議した

横浜で締結した日米和親条約では細かい点がほとんど決められていなかったため、下田に上陸したペリーは早速日本側と交渉に入った。その場所となったのが了仙寺である。
10日間にわたる協議の結果、1854年6月17日(嘉永7年5月22日)、日米下田条約(日米和親条約付則13ヶ条)が結ばれた。

この中で、アメリカ人は下田の街中を自由に歩く権利、すなわち「遊歩権」を与えられた。これは一種の交流権ともいえるもので、黒船のアメリカ人と下田の町民たちはそこそこで異文化の交流を体験をした。

了仙寺では、下田の町民たちを対象としたコンサートがアメリカ海軍の軍楽隊によって開かれた。これが日本での最初の洋楽のコンサートのこと。

1854年にペリーが下田に来航時、立石得十郎は下田で通詞を務めた際には、立石斧次郎を同行させていた。

下田・長崎・神奈川運上所での英語研修

1855年（安政2年）ペリー来航後立石得十郎は下田奉行に所属して家族と共に下田に住む。
トミーも叔父の元に住み込み本格的な語学を学び森山栄之助から英語を学ぶ。

1857年14歳には、下田の米官使のハリスやヒュースケンから生の英語を学んでいた。
同年7月幕府は長崎に英語伝習所を開設した。この時トミーの姉寿賀の夫で長崎奉行支配組頭加藤金四郎を頼って長崎に行き英語伝習所に入学するも、生徒としてではなく既になんかの英語力があつたため教授の助手を務めた。

1859年5月神奈川、長崎、箱館の三港が開かれ欧米諸国との貿易が幕府により許され運上所（税関）が設けられた。トミーは神奈川運上所（横浜税関）の通詞見習に採用され英語を使用する機会に恵まれた。
横浜の外国人貿易商達との生の英会話により英語力がUPした。

福沢諭吉が福翁自伝に長崎から来た子供が英語を知っているというので、その子供を呼んで来て習ったり・・・と書いている。この子供がトミーである。

長崎英語伝習所

安政5年（1858年）7月、英語に特化する形で長崎英語伝習所が設立された。生徒は通詞や地役人の子弟であり、教師は長崎海軍伝習所のオランダ海軍軍人や、英国人のラクラン・フレッチャー（Lachlan Fletcher、後の横浜領事）らが務めた。

主な生徒

- ・ 立石斧次郎 - 万延元年遣米使節の通訳
- ・ 何礼之 - 後には教師も勤めた
- ・ 大隈重信 - フルベッキから英語を学んだ。後に佐賀藩の語学学校である致遠館にフルベッキをスカウト。
- ・ 柴田昌吉
- ・ 日下部太郎
- ・ 山口尚芳
- ・ 馬場辰猪

ペリーは下田の了仙寺で日米和親条約の細部を幕府側と協議した

横浜で締結した日米和親条約では細かい点がほとんど決められていなかったため、下田に上陸したペリーは早速日本側と交渉に入りました。その場所となったのが了仙寺です。10日間にわたる協議の結果、1854年6月17日(嘉永7年5月22日)、日米下田条約(日米和親条約付則13ヶ条)が結ばれました。

この中で、アメリカ人は下田の街中を自由に歩く権利、すなわち「遊歩権」を与えられました。これは一種の交流権ともいえるもので、黒船のアメリカ人と下田の町民たちはそこそこで異文化の交流を体験しました。

了仙寺では、下田の町民たちを対象としたコンサートがアメリカ海軍の軍楽隊によって開かれました。これが日本での最初の洋楽のコンサートです。

1854年にペリーが下田に来航時、立石得十郎は下田で通詞を務めた際には、立石斧次郎を同行させていた。



万延元年遣米使節団に無給見習い通詞として参加

〔原文〕

和蘭通詞 得十郎倅

立石斧次郎

右之者年頃相応に而人物も宜敷通辨も可成
出来いたし候に付先般神奈川運上所へ差出
為見習外国人引逢為致置候処同人父得十郎
儀重墨利加合衆国へ被遣候に付書面斧次郎
儀も英語通辨稽古旁召連度旨得十郎申立候
間父介抱旁承届召連候様申渡候尤歸府之上
斧次郎通辨熟達いたし御用辨相成候ハ、其
節申上御手当等相願候様可仕と奉存候間此
度御手当筋等者相願不申候外国奉行水野筑
後守申談此段申上候 以上

申正月

新見豊前守

村垣淡路守

小栗豊後守

万延元年遣米使節団に無給見習い通詞として同行

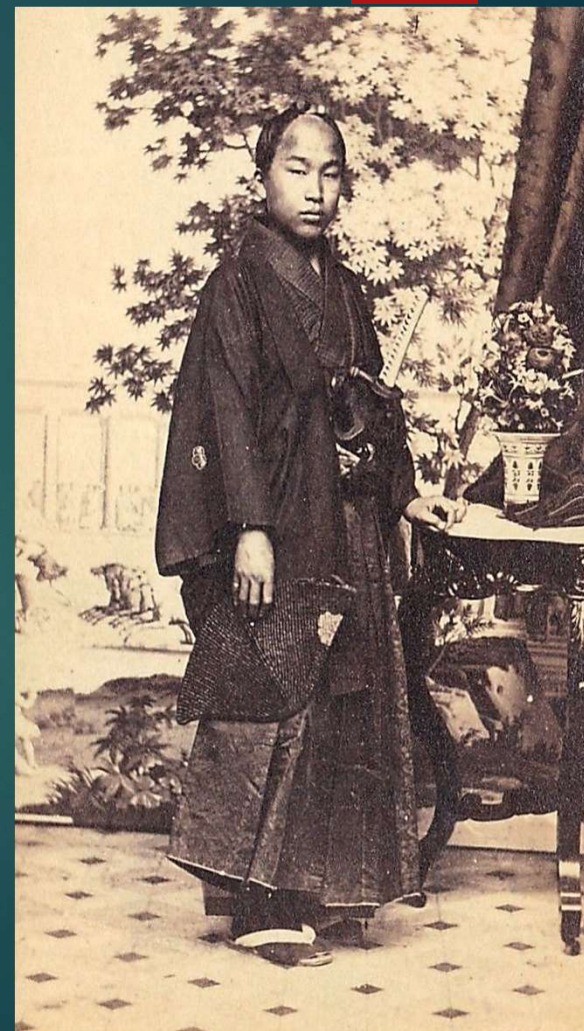
「幕末維新外交史料集成」（第四巻修好門）に立石得十郎が立石斧次郎を無給見習い通詞として同行嘆願書を提出して幕府から承認された際の承認書が掲載されている。

ポーハタン号の船中で、トミーは毎日十数回アメリカ海軍士官室に出入りしては愛嬌を振りまいて、水兵などにも挨拶しながら英会話のこつを掴み取った。ポーハタン号の米国海軍士官から付けられたニックネームが「トミー」であった。その名の由来は叔父の得十郎が幼名の為八からタメ・タメと呼んでいたことからであった。米国ワシントン上陸からニューヨーク出版までの1ヵ月半の滞米中、その若さと責任の軽さに支えられた。自由な行動が、物々しい外交使節の威厳とは対象に、アメリカ市民の間で評判になった。その評価が現地の週刊の新聞に掲載され、とりわけ絵入週刊誌には写真から起こした線描きの押絵で肖像まで刷り上げられた。トミーは、ポーハタン号がハワイに寄港したとき、カメハメハ国王臨席の乗組員歓迎舞踏会会場まで見に行ったり、サンフランシスコ到着のさいは記者会見の通訳を務めたりしたが、東部ではワシントンのウィラーズ・ホテルで米国婦人達との会話を楽しみ、アメリカ婦人と結婚したいとまで言い出したそうで、彼女らの関心をそそった。ボルティモアでは消防車のホースを自らとり、フィラデルフィアへ汽車では、機関車ダニエル・ウェブスター号に試乗したり、ホールでは日本やアメリカの歌を唄ったりもした。トミーの歌声はテノールで唄った日本の歌は「お江戸日本橋だ」と後に外孫に本人が語ったとのことである。

米国での写真撮影画像



いずれもニューヨークにて撮影





JATEISH GNOJERO, OR "TOMMY," THE PET OF THE LADIES.

舞踏会でトミーはダンスも踊った？











*afforded at leading music stores
Philadelphia 1869*

DEDICATED TO
TATEISH ONUGERO
[OR TOMMY]

OF THE
JAPANESE EMBASSY

Philadelphia LEE & WALKER 722 Chestnut St

Colored ★

Plain ★

" TOMMY POLKA."

" Wives and maids by scores are flocking
Round that charming, little man,
Known as Tommy, witty Tommy,
Yellow Tommy, from Japan."

Ch: Grobe.

Op: 1211.

— 0 —

All^o moderato.

POLKA.

*U.S. 4.
Entered according to Act of Congress, A. D. 1869, by Lee & Walker, in the Clerk's Office, of the Dist. Ct. of the E. D. of Pa.



「ポルカ」とは、音楽様式の一様式。1830年ごろ、欧州のボヘミア地方に起こった舞曲。4分の2拍子の軽快な曲調で、特徴的なリズムをもつ。19世紀に大流行した。

作曲家

グローブ,チャールズ (Grove, Charles)

(1817年ザクセン＝ワイマール生、1880年ニュージャージー州ベントン没)アメリカの作曲家
ルター派の牧師の息子としてドイツで生まれ、1839年にアメリカに移住し、2年後にデラウェア州ウィルミントンに新設されたウェズリアン女子カレッジの音楽科教授に迎えられた。68年にはすでに退職していたが、45年以来経済的に主な支えとなっていたマーケット通り807にある楽器店の営業は、71年まで続けた。72年にニュージャージー州トレントン近郊のペントン神学校の音楽学部長になった。

万延元年 チョンマゲ使節の“異端少年”

ポルカにしのぶ大活躍



「異端少年」の正体が解明された画期的なきっかけは、昭和55年1月10日付毎日新聞社会面トップ記事である。「万延元年チョンマゲ使節の“異端少年”大活躍しのぶポルカ 米社交界が歌って踊ったヒット曲 幻の楽譜見つかる」との見出しで、日本関係古書収集家の米国人ポール・ブルーム氏が、ニューヨークで、楽譜を発見した記事であった。

幻の楽譜、みつかる

人妻も娘も夢中
その名はトミー



楽譜を発見した
P・ブルーム氏

米社交界が歌って踊ったヒット曲

「トミー」の名は、万延元年（1860年）に、米国人ポール・ブルーム氏が、ニューヨークで発見した。この楽譜は、万延元年に、チョンマゲ使節の「異端少年」が、大活躍した。この楽譜は、ポルカという曲で、人妻も娘も夢中になった。この楽譜は、幻の楽譜と呼ばれていた。この楽譜は、米社交界が歌って踊ったヒット曲であった。この楽譜は、万延元年に、チョンマゲ使節の「異端少年」が、大活躍した。この楽譜は、ポルカという曲で、人妻も娘も夢中になった。この楽譜は、幻の楽譜と呼ばれていた。この楽譜は、米社交界が歌って踊ったヒット曲であった。

毛髪ドック

トミーの正体

トミーの正体が解明された画期的なきっかけは、昭和55年1月10日付毎日新聞社会面トップ記事である。「万延元年チョンマゲ使節の“異端少年”大活躍しのぶポルカ 米社交界が歌って踊ってヒット曲幻の楽譜見つかる」との見出しで、日本関係古書収集家の米国人ポール・ブルーム氏が、ニューヨークで、楽譜を発見した記事であった。

この新聞記事を見たトミーの外孫故櫻井成廣青山学院大学名誉教授が名乗りを上げ、その翌日同紙上に幕府の軍装で兄と一緒にギヤマンでビールを飲み交わす非常に珍しい写真が掲載された。そしてトミーと云う人物の詳細が明らかになったのである。

帰国後のトミー

ハリスと共に来日した通訳官ヒュースケンが1861年1月15日三田で攘夷派の浪士に暗殺された後、帰国して2ヶ月後のトミーは、幕府の御雇通詞として、米国公使館として使われていた麻布善福寺に出向し、ヒュースケンに代わって通訳を務めることになった。ハリスの依頼で「孟子」の英訳をした。幕臣で後の三井物産初代社長になった益田孝は当時浅草から毎日麻布善福寺まで通い、トミーから英語を教わったと回顧録の中で書いている。1862年トミーは、米国公使館勤務の傍らに、江戸の下谷七軒町に英語塾を開いた。弟子には三宅秀(ヒズル)、益田孝、矢野二郎らがいた。

1862年ハリスは米国本国（北軍）の要請で帰国しトミーの公使館での通訳の仕事は終了する。

1863年（文久3年12月）実の兄小花和重太郎によって幕府に「弟丈夫届」が提出される。これには、姓名が米田桂次郎成正と記載され立石斧次郎と云う名前はこの時点で消息を絶つことになる。この頃には幕府の開成書（洋書調所）の教授職並出役となり外国奉行書簡係として主務の田辺太一（ヤサダ）の下で福沢諭吉らと共に働く。

1864年4月（元治元年）陸軍奉行支配下歩兵指図役勤方兼開成所教授職出役をおおせ付けられる。

1865年2月(慶応元年)（21歳）陸軍奉行支配下歩兵指図役頭取勤方となり、横浜の陸軍伝習所にて洋式訓練を受ける。

1863年（文久3年12月）実の兄小花和重太郎によって幕府に提出された「弟丈夫届」

弟丈夫届
一才
右松平井田桂太郎候天保十二年正月十六日父様殿
病身虚弱其前以届不り上見合在生知退成
長け師至
丈更在成生間親類一同相扶之上
幸存以依之方丈夫届申上
十二月
小花和重太郎

1867年5月3日(慶応3年) (トミー23歳) 15代将軍慶喜は大阪城内で四国（英・蘭・仏・米）公使謁見という幕府外交最後の時を迎える。トミーは将軍慶喜と米国公使ヴァン・ヴォールクンバーグの謁見で通訳を務めた。大坂心齋橋の写場で、兄弟で祝杯を交わしながら撮影された。





1864年4月陸軍奉行支配下歩兵指図役頭取勤め方となり、横浜の陸軍伝習所にて洋式訓練を受ける。
同年5月16日14代将軍家茂は長州再征伐のため大阪城に向けて江戸を出発する。
トミーは兄の小花和重太郎（歩兵差図役頭取）と共に騎馬軍装で随行して大阪城に向った。

1867年(慶応3年春)兄重太郎と、トミーがアメリカ製ビールを楽しんでいる湿版肖像写真が小花和家に現存している。撮影時期は不明なるも大阪城駐屯中の頃と思われる。当時の武士の写真はいずれも真面目な顔をしたものばかりだが、この写真の二人は陽気に笑っており他に例を見ない。

*** 小栗日誌に見られるトミーの動き**

1867年（慶応3年2月と11月）に小栗公の日誌にトミーの名前が登場している。
「米田桂次郎来る逢い申し候」とあるだけで用件については何も書かれていない。
将来の日本について二人で色々と話し合ったのではないだろうか？

*** アーネスト・サトウとの接点 1867年(慶応3年夏頃) 23歳**

イギリス公使館通訳官のアーネスト・サトウが書記官ミッドフォードと共に七尾に上陸して、大阪城まで陸行、能登加賀を訪問した時、トミーは外国奉行平山敬忠*の命によって高畠五郎と共に近江草津の宿でアーネスト・サトウ一行を出迎える。

アーネスト・サトウの著書「一外交官の見た明治維新」の中で、トミーのことを大変上手に英語を喋る青年と書いている。

戊辰戦争とトミー

1868年（慶応4年）24歳

1月3日鳥羽伏見の戦いを皮切りに戊辰戦争が勃発する。

1月6日将軍慶喜は密かに幕府軍艦開陽丸で大阪を発ち江戸へ向かう。

この時兄小花和重太郎とトミーも共に江戸に帰った。

2月に歩兵頭並（中佐）に昇進したトミーは、父親がかつて奉行を務めたゆかりの日光東照宮を官軍から守ろうと、兄重太郎と共に大鳥圭介を頭とする旧幕軍に加わり、戦った。ゲリラ戦の様な苦しい戦いで、兄重太郎は4月22日宇都宮郊外雀ノ宮の戦いで腹部に敵弾を受けて戦死する。トミーは兄の遺体を背負い3日間山中を歩き、火葬した後日光市の天台宗浄光寺に葬ったが、それが元日光奉行の長男ということでも好意的に受け入れられたとのことである。

トミーはその後も戦闘を続けるが、5月6日今市に近い大桑の戦いで太ももに貫通銃創を受け落馬失神する。トミーは命をとり止め、大鳥圭介と共に仙台へ逃れる。

当時武器商人として暗躍していたプロシア人のエドワルド・シュネルと塩釜港から横浜港経由フランス商船で上海へ渡った。上海では大鳥圭介のために武器弾薬を調達して旧幕軍の再起を図ろうとした。

パリ万博へ将軍の名代として行っていた徳川昭武一行が大政奉還の報に驚き急遽帰国の途中上海に立ち寄ったところにトミーは出会った。前将軍のために弟を総大将に迎えれば、全軍の士気が上がると渋沢栄一に訴えたが、逆に渋沢からは、もはやそのような時代ではないと強く諭され、やがて武器調達を断念してトミーは帰国した。

1870年明治3年春金沢へ

現在の兼六園内にある成巽閣（せいそんかく）を校舎に、従来からあった英語学校を統合して開校した金沢藩中学東校の英語教師として長野桂次郎は、前任の三宅復一（またいち）の後任として赴任した。金沢での勤務は翌年秋までの2年足らずであるが、欧米文化に触れた桂次郎のハイカラの一面がその事業中に見て取れた。「オー、ベア」とか「オー、ウルフ」とか言って爪を切らせたり、腰に手拭いを下げるのは当時普通であったが、「料理人のような真似をするな」と、注意してやめさせたとの噂が残っているそうだ。英語のエキスパートが授業を通じて金沢の若者らに与えた影響は多大なものだった。桂次郎が金沢を去った理由は、岩倉具視使節団にえられたためであった。

岩倉具視遣米欧使節団に随行 トミー28歳 1871年(明治4年10月末)

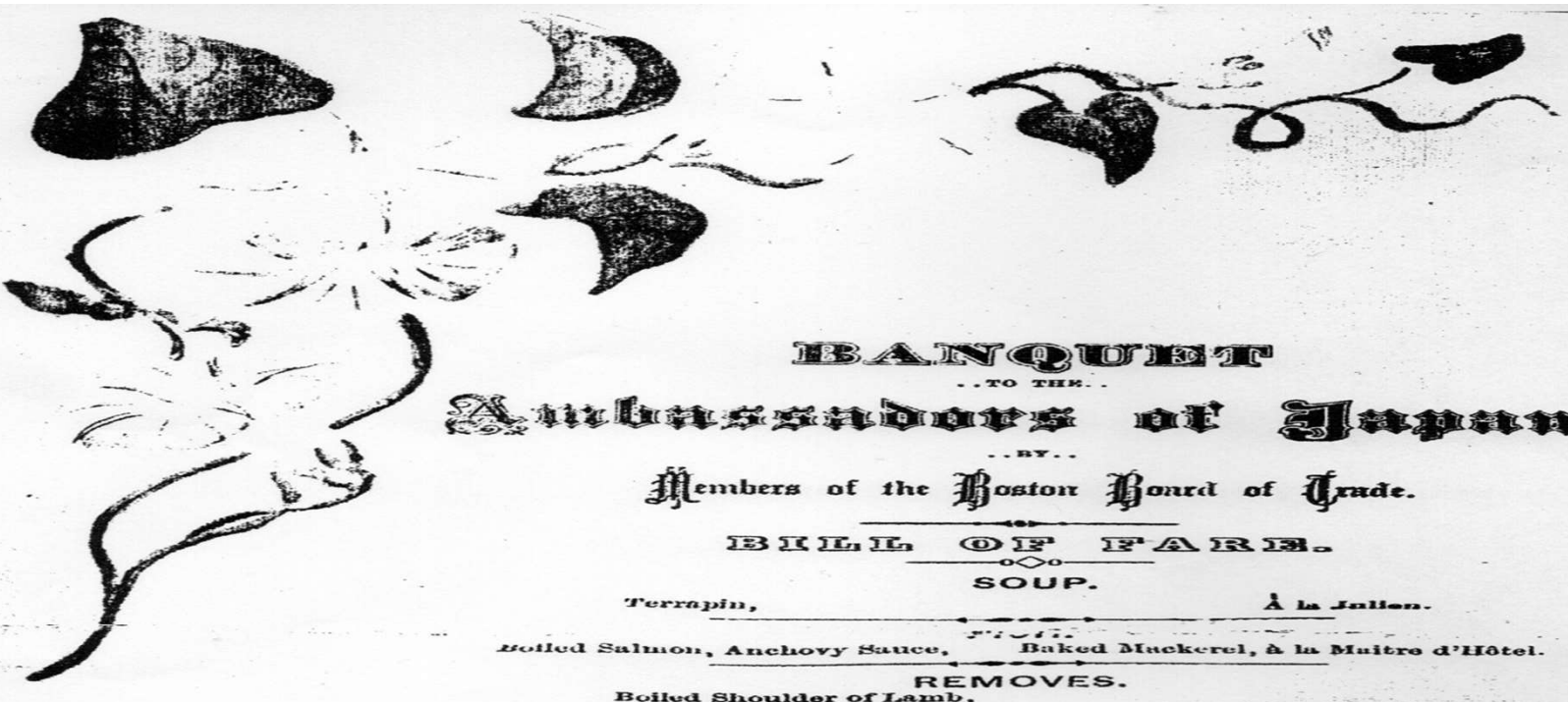
岩倉具視遣米欧使節団に筆頭書記官田辺太一（ヤサガ）によりトミーの英語力が必要であるとの口添えがあり、最終的にトミーは外務省二等書記官の肩書きで通訳として随行することが決定した。

トミーにとっては二度目の米国訪問は決して明るく楽しいものではなかった。

今回の渡米は幕府軍に勝利を収めた新政府が代表を送り出している使節であり、トミーは旧幕府軍の人間であった。書記官の大半は幕臣であるのに対し、理事官達は官軍で西洋のマナーに無知な者だらけであった。

船上での模擬裁判の被告としてトミーが暴かれた。とりわけご婦人に対し気軽に話しかけるトミーの行動があらぬ誤解をまねき日本初の裁判というものに発展してしまった。罪状はトミーが女子留学生の船室に押しかけ、たまたま一人で居た女性に不埒な行為を行ったというものであった。裁判官は伊藤博文が勤めた。実際はトミーが女性に冗談を言って、彼女がそれを解さなかったということで、最終的には列席した外国人たちが婦人に冗談を言うことは日常普通であることだと証言して無事に終わったとのことである。我が家に現存するトミーの直筆日誌には使節団に随行が決定前後から、米国に到着するまで綴られているが、同裁判の詳細はふれずに、唯船上で模擬裁判なるもので戯れたと記している。

帰国後は、1872年～1877年 工部省鉱山寮7等出仕 四国・紀伊・飛騨等の鉱山を視察する業務に携わった。



BANQUET

.. TO THE ..

Ambassadors of Japan,

.. BY ..

Members of the Boston Board of Trade.

BILL OF FARE.

SOUP.

Terrapin,

À la Julien.

Boiled Salmon, Anchovy Sauce,

Baked Mackerel, à la Maître d'Hôtel.

REMOVES.

Boiled Shoulder of Lamb,

Roast Sirloin of Beef,

Roast Green Goose,

Roast Young Chicken,

Roast Mongrel Duck.

COLD ORNAMENTAL DISHES.

Galantine of Turkey, with Truffles,

Becassines, en Plume,

Poisson au Naturelle en étang,

Les Pigeons farcie, au Naturelle,

Mayonnaise of Chicken.

SIDE DISHES.

Filet de Boeuf, aux Champignons,
Sweetbreads, larded, with Green Peas,

Soft-shell Crabs, fried in Crumbs,

Oysters, scalloped in Shell,

Macaroni au Parmesan.

GAME.

Plover,

Woodcock,

Snipe.

Grapes,

Bananas,

Melons,

Peaches,

Pears,

Roman Punch,

Glacé Pudding,

Confectionery,

Bisque Glacé,

Vanilla Ice Cream.

COFFEE.

Revere House, Boston, August 2nd, 1872.

長野桂郎が持ち帰ったボストン貿易協会主催の宴会のメニュー

1878年8月2日 Eevere House、Bostonにて開催

亀のスープ ？

鮭のアンチョビソースかけムニエル、 マグロのロースト

羊の肩肉、ローストサローインビーフ、若鳥のロースト

七面鳥のトリフ付他

私は料理の専門家ではないので、鈴木真理子さんからの感想を下記します。

前回のプレゼンテーションでご紹介したウィラードのメニューは、使節団のためにというより、沢山の一般のお客さんに

どん！と出している普段のダイニングホールのメニューなので品数は多いですが、こちらのメニューは使節団のためだけの晩餐会メ

ニューということで、品数は少ないですが内容はなかなか立派ですね！やはりここでも亀のスープが出ていますが、ここでの調理

法はポタージュ的にマッシュしたお野菜も入っているもののようです。やはりお肉多めですが、シギがあったり、東海岸ならではのソフトシェルクラブ（まだ殻が柔らかくそのままバリバリ食べられる蟹）などもあり興味深いです。





息子の長野保



晩年の長野桂次郎
岩倉使節団当時の衣装を着た

北海道への移住、ハワイ移民監督として渡航

1877年34歳には、遂に官職に見切りをつけ事業を興すべく一家を挙げて北海道の石狩へ移住して缶詰工場等事業を興すが、やがて同事業は開拓使に接收され農業に従事するが失敗して東京に戻る。

1887年（明治20年）43歳で外務省のハワイ移民監督官に任命され家族でハワイに渡航する。これも2年間で終止符が打たれ、帰国して1891年43歳で大阪控訴院の通訳官に就任し1909年66歳の頃退官し、以降西伊豆戸田村澤海（タクミ）という海沿いの家で隠居生活を77歳まで送り1917年1月13日帰らぬ人となった。

トミーの父である小花和度正（ハナワ・ナリマサ）の側室の実家が澤海にあったことから、結核を患っていたトミーの息子たちの療養地にしたようだ。

トミーの先祖について

箕輪城主長野信濃守業政の父長野信業の子は、業氏・業政・直業・女子とされているが、直業は実は乙業の子氏業の子であり、直業は信業の子として養子となったことで、両系図が再び繋がったとされている。更に、箕郷町の伝承によれば、直業は業氏（業政の兄）の子業勝を後見したとされている。

箕輪城落城以前から小埜村（高崎市）に居領があった小花和氏の系図によれば、長野信業の子として直業がある。直業→長年（若狭介）→知久（小鼻輪玄番）→知久（小埜太兵衛）→小花和権九郎（成武）この小花和が長野家の先祖とされている。

小花和権九郎は、徳川3代将軍家光の次男・綱吉に重用され、小花和成武と改名して旗本直参として迎え入れられた。成武は、徳川綱重との関係もあり、その「お保良の方」という側室の妹を嫁に迎える。綱吉とお保良との間には、家宣が生まれる。家宣は綱吉の後を継いで6代将軍になるので、成武の息子達と6代将軍とは従兄弟同士ということになる。徳川綱重と小花和成武が近い関係になったかは、明治・大正時代に三篇面白い歴史小説が残っている。「小花和権九郎」、「溜池」、「赤坂溜池」の短編小説がある。いずれも実話に基づき小説になっている。

御聴講誠にありがとうございました。